

生悉有佛性と説き迷へる故に凡夫強情の修行をなし悟る時は佛ある事の自覺を教へて居るけれども諸經に於ては然らず、譬て云へば暗かりに光明がある、其の光明を尊むとは云ふけれども、未だ玉を見出し得ないと同様に、幾ら光を點じた處が其の處に存する光る玉を見附ければ、矢張眞の吾人を知ると云ふ事は出来ない。吾々は幾ら悟つて色々の徳を積んで見た所が、自己の佛性ある事を自覺してそれを開發し向上しなければ、丁度暗室の中に唯光りを點じて玉を見ざると同様に、眞に解脱する事は出来ないのである。吾人佛性ある事を悟らなければ、何時迄も迷より覺めて安心立命を得ると云ふ事は出来ないのである。世間に於て佛教は厭世主義消極主義非國家主義である等の非難されるのも要するに爾前權經に於ての非難にして、法華經の國家主義開顯主義統一主義と云ふ上より見れば、佛教決して厭世的にあらず、惡平等非國家的のものでは無いと思ふ。實教たる法經に依らざれば國家統一はたろか、衆生濟度して安心

立命を得せしむる事は出来ないのである。吾々日常生活して行く上に就ても、宗教の信念力に依つて苦を樂を轉じて我々に奮闘力を起さしめ、樂しく其の業務に従事する様に於るのである、是れ偏に宗教の價値ある所にして、我々生活して行く上に於て宗教なる物があかつたならば、一増人は惡事を働く事と思ふ。宗教に依つて祖先崇拜の念あれば自然遮惡修善の心も起る、従つて國家も安泰ある事が出来るのである。故に國家としても宗教は大切なる者であつて、日常生活と密接なる關係を有する事は明也。故に宗教に依つて太平ある國家、平穩ある家庭も出来得る者あれば、宗教の研鑽に勉むべきあり。

## 余の宗教觀

辻 能 學

宗教とは宇宙の神秘を開出し、専ら人心の奥底を支配するものにして、實に世界文明の源泉とも

稱すべきものなり、故に善良ある宗教の教訓に遠ざかり其の聖光に浴せざる世は暗黒にして、正しき精神の修養なく、美しき信仰の安心無き人類は残忍なり、残忍と暗黒との社會、彼等は既に衰亡を意味しつゝ有るにあらずや。

方今濁水の如き現社會に一度瞳を轉せんか、日に月に混濁を加へ來り、横暴至らざるを、即ち罪惡に罪惡を以てし、人道を破壊し、正義を没却し、自己を偽り他を欺き、所有魔神を己が一身に集め以て永久に己が住家たる此社會を惡化せむとこしつゝあり。嗚呼!! 社會は如斯にして悲雨慘風終に煩悶懊惱の可憐兒と自暴自棄の破廉恥漢とを産み出せる也。於此乎人生又空々寂々、鐵窓の下に冷かざる曉星を眺むるの感あり。此陰險ある人生を招致せしはそも何人ありしや。此等は畢竟するに皆是れ宗教の力用不充分にして、且つは宗教たるの本領を失せる邪宗教者に依れる事は深く此が起因する事を覺ゆべし。然らば其が遠く淵源を探尋せば、彼の徳川三百年間、遡ては鎌倉執權北

條氏時代の榮華は政略上宗教思想を束縛して、今日の社會たらしめたる也。宗教の興廢は常に國家の消長に多大なる關係を有するものにして、試みに歐米各國將た東洋に於ける支那朝鮮に注目せんか、國家に對する善良なる宗教の必然ある事を實証すべし。故に吾人は宗教の必要を認むると同時に、宗教の撰定に意を用ひざるべからず。而して其が決定に先立ちて、一應我國の理想を探究して我國体に適應し、具又其が世界的にして普く人類を救済し蘇生せしむる靈力を有する宗教を取らざるべからず。然らば我が日本國の理想とは、畏くも 明治天皇の『古今ニ通シテ謬ラス中外ニ施シテ悖ラス』と宣ひし御勅語の意味にして、即ち公明正大にして神聖ある道義を標準とし、自然的の間に聖徳を修學せしめ、天地の廣大と共に宇宙の眞理に安じ、永遠的平和を現出し以て人類救済の實を擧げんとする御希望が、皇祖皇宗の肇めより 今上陛下に至る迄の御聖慮にして『古今ニ通シテ謬ラス中外ニ施シテ悖ラサル』明徳の指導者

たらんとするが理想あれば、聖徳を以て全世界の思想を統一せんとするが我日本國の一大理想とする所なり。

今や世界は狂亂の巷と化しつゝあるも、此が大終局を告げたる曉に於ては、必ずや充實的宗教の眞理を要求する事甚大ならんとするに當り、之に對する救濟者與供者弘導者たる者は、苟も積徳尙ほ富岳を凌ぎ人類を益する事天日の如くあらざるべからず。斯かる大活動主義日本主義は、何れの國何れの時に於ても、世を救ひ人類をして復活の思ひ有らしむる妙法主義唯一有るのみにして、他を論ずるの餘地なし、故に吾人は須く靈の人として、否世界救濟の天使として、此靈國の爲に叫び、其偉大なる宗教を此處に顯現し、此が教益を與へ、靈光に接觸せしめざるべからず。故に前述の如く宗教撰定の必要を切に感ずるなり。然らば如何なる宗教を擇ぶべき歟？

吾人は敢えてクリスト教の我國体に適合せざる事を斷言し、次に彼の鎌倉時代に於ける佛教中の

全勢力を掌握せる念佛禪宗も亦我國民の信ず可からざる宗教なる事を主張して止まざる所なり。何となれば彼等は現世を無視して、未來に憧憬し、此身を罪多きものとなし淨土を求め天國を思ふ。即ち一は西方極樂を説き、一は天國の夢想を語るものに有らずや。而して畏くも臣下たる者にして三上皇迄も遷し奉りし逆臣義時は、當時の禪念等の邪宗教を信仰せし徒ならずや。由是觀此宗教其物が如何に人類の内面をも左右し、其行動を甚しく變化せしめ惡化せしむるかを觀察するに難からず。吾人は日本國の理想を實現せんとする大責任者たり、天國の美又彌陀世界の極樂淨土たりと雖も安んず此國を放棄し祖先傳來の責任を放任するに忍びんや。如何に貧困なりと雖も、父は父なり我が父を捨て、他の父を敬ふ事能はざるが如し。吾人は此の靈國に生れ、而して此日本國に盡すべき先天的の靈的事業の双肩に存在せるを自覺せざるべからず、利己主義、個人主義を主張せざる以上は此等の宗旨に於て到底満足する事能はざる也

能く時代の要求に適し、世を救ひ人を益し、元氣と生命とを與へて希望の光に活き自由の天地に活動し、自然的に幸福を生みて安穩の樂所に住居し、娑婆即寂光の知見を開かじめ、國家をして泰山の安きに導くものは、佛陀の豫言の如く唯々我が法華經のみ有る事を絶叫して止まざるあり。而して此法華經を色心二法に體讀し、尙教機時國教法流布の前後を辨へ、日月の能く世界を照すが如く明かに親しく我國の爲めに一平民として生れ、近く我等衆生を善導し、靈活ある佛に蘇生せしめんと勤持品を身に讀み、血涙を以て立正安國論を絶叫しつゝ我等衆生を開導したる、宗祖日蓮上人の宣傳せられたる日蓮法華宗こそ、我國全宗教否全世界に於ける宗教を總擧して第一位に置くべき宗教也。此一大宗教宗旨こそ人類をして光明界に誘導する事を得る也。國家的感念を一般人民の腦中に刻示し、愛國の衷情を説示するは此宗旨に有らざれば得べからざるあり。而して此偉人は我等と同血液の循環して我等衆生の祖先なる事を記憶せざ

るべからず。一代を奮闘に終はらせ給ひし吾祖は又勤王誠忠の志士にして、愛國護法の念固く一身を捧げて日本國の爲に盡し、自ら叫んで、『我日本の柱とならん我日本の眼目とならん我日本國の大船とならん』と誓願を立て、大磐石の決心は其が爲めには頸を刎ねられ胸を刺れ、父母の命に及ばんと此誓願は曲げじ破らずと大自覺大決心を遊ばされし也。如斯嚴霜烈日の意氣ありて、又弟子檀那に對しては春風熙日の温情を具備せられ、僅かの一愛馬に別るゝ時に至て、涙潜々として法衣の袖を潤し給ふ、實に此れ大丈夫大偉人と云ふべし。余の宗教觀たるや、元より薄智短才の我れにして、斯る大問題を解決する事や又至難なりと雖も、結局此大丈夫大偉人の弘通せられし日蓮宗を以て全佛教全宗教中に於て、其何れの方面に亘るも、此を以て國家人類に適應せる諸宗最爲第一の宗教と確信して止まざる所也。(完)